

2006年6月5日

東京大学医学部附属病院 整形外科学教室

東京大学医学部 22世紀医療センター

関節疾患総合研究講座

臨床運動器医学講座

世界初 変形性関節症の大規模臨床研究プロジェクト ROAD の開始

～ROAD(Research on Osteoarthritis Against Disability)～

この度、国内での患者数700万～1,000万人と言われている変形性関節症(osteoarthritis、以下OA)の背景にある環境因子・遺伝因子を系統的・網羅的に探索するための、世界に類を見ない規模の臨床研究プロジェクト(ROAD)を開始することとなりました。本プロジェクトの詳細につき、下記の要領で記者発表を行うこととなりました。皆様にはご多忙中と存じますが、お申し込みの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

【発表日時】 2006年6月12日(月) 15:30～16:30

【発表場所】 東京大学医学部附属病院 入院棟A 1階 レセプションルーム

<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/access/map2.html>

【タイトル】 変形性関節症の大規模臨床研究プロジェクト ROAD の開始

～ROAD(Research on Osteoarthritis Against Disability)～

【発表者】 東京大学医学部 整形外科教授・東京大学医学部附属病院副院長

22世紀医療センター長 中村耕三

東京大学医学部 22世紀医療センター・関節疾患総合研究講座助教授

吉村典子

東京大学医学部 22世紀医療センター・臨床運動器医学講座助教授

馬淵昭彦

【発表要旨】

変形性関節症(osteoarthritis、以下OA)は高齢者の生活の質を低下させ、健康寿命を短縮させる重大な疾患で、その患者数は四肢関節・脊椎を合わせて国内で700万～1,000万人と言われています。本疾患は、介護保険の要支援原因疾患の第一位で、医療費の高騰、労働力の低

下など、世界中で社会問題となっています。しかしながら、その研究は他の生活習慣病と比較しても明らかに遅れており、その予防を目的とした疫学的アプローチは国内外を通じて殆ど行われていません。また、その発症・進行のメカニズムも解明されておらず、根本的な治療法開発のためのエビデンスもないため、治療は鎮痛剤や装具などの対症療法に依存しているのが現状です。

昨年、東京大学医学部において、系統的な臨床研究を行うことを目的とした 22 世紀医療センターが開設され、東大整形外科はこの中に OA を専門に研究する 2 つの講座（関節疾患総合研究講座と臨床運動器医学講座）を設立しました。この 2 つの講座では詳細な臨床情報とゲノム情報の両方を網羅した大規模データベースの構築に既に着手しており、これを基盤として世界に類を見ない規模の OA 臨床研究プロジェクト ROAD (Research on Osteoarthritis Against Disability)を開始することとなりました。今回は、このプロジェクトの背景、研究の概要、および展望についてご説明させていただきます。